

**愛・地球博 理念継承エリア
基本構想・計画
報告書(案)**

平成 18 年 11 月

愛知県建設部公園緑地課

目 次

1 . 計画の前提	
1 . 1 計画検討にあたって	1
1 . 2 博覧会後の公園計画	3
1 . 3 公園全体計画における「アイデアのひろば」の性格、展開の方向	7
1 . 4 博覧会の理念と成果の継承 ~ 博覧会が生み出したもの ~	9
2 . 基本構想	
2 . 1 基本方針	17
2 . 2 ゾーン配置	18
2 . 3 各ゾーンの展開	19
2 . 4 テーマゾーンにおける機能展開	24
2 . 5 博覧会の理念を継承したイベント開催	26
3 . 基本計画	
3 . 1 空間整備方針	27
3 . 2 動線計画	29
3 . 3 植栽計画	31
3 . 4 エリア別計画 (地球市民交流センター・フレンドシップ広場)	34
3 . 5 基本計画図	45
3 . 6 展示・情報発信機能	46
3 . 7 市民団体意向調査	53
3 . 8 記念ゾーン計画案	57
3 . 9 運営・管理について	59
3 . 10 整備に向けての課題	60
4 . 委員名簿、委員会の協議経過	61

1. 計画の前提

1.1 計画検討にあたって

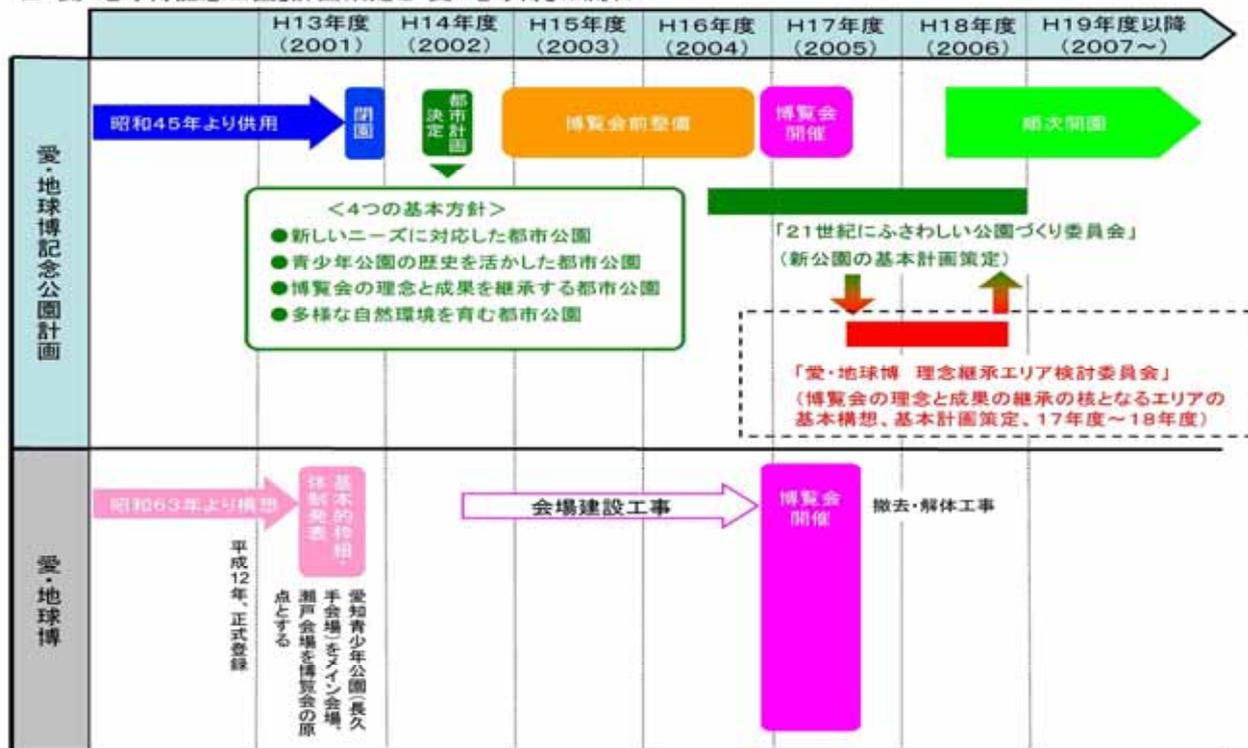
(1) 公園計画の経緯

愛・地球博記念公園は、2005年に行われた博覧会前には、愛知青少年公園として昭和45年の開園以来、青少年の健全育成はもとより、気軽に利用できるレクリエーションの場として幅広く県民に親しまれた。近年になって公園を取り巻く社会情勢は大きく変化し、少子化に対応する青少年健全育成環境づくりが重視されるとともに、ライフスタイルの多様化や高齢社会への対応、公園周辺の都市化にともなう防災機能の強化など、都市施設としての機能の充実が求められるようになった。そうした中、「自然の叡智」をテーマに「愛・地球博」が本公園で開催されることになり、これを契機として21世紀にふさわしい公園として整備を行うこととし、平成14年9月に都市計画決定を行った。公園の一部エリアは、博覧会後にも継続的に利用する恒久施設として、博覧会の会場づくりと連携しつつ博覧会前に整備を行った。(次項参照)

新公園の計画づくりについては、平成16年11月に「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」を設置し、都市計画決定時に策定した4つの基本方針に基づき検討を進めた。その中で、「博覧会の理念と成果を継承する場」と位置づけた「アイデアのひろば」について、「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」を設置し、より発展的に検討を進めることとした。「アイデアのひろば」の検討は、平成17年度～18年度の2カ年で基本構想・計画の策定を行い、6回の委員会を開催した。(P.61参照)。なお、公園全体計画については、本構想の対象である「アイデアのひろば」を検討中とした上で「愛・地球博記念公園 暫定基本計画」として平成18年2月に策定、公表しており、今後、「アイデアのひろば」の本構想・計画を取り込んで平成18年度末に最終的な公園基本計画として取りまとめる予定である。

本報告書は、「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」におけるこれまでの検討内容を踏まえ、「愛・地球博 理念継承エリア 基本構想・計画」についてとりまとめたものである。

■「愛・地球博記念公園」計画策定と「愛・地球博」の流れ



新公園の名称については、平成17年11月の公園名称公募を通して「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」にて、正式名称:「愛・地球博記念公園」、愛称:「モリコロパーク」として決定した。

(2) 博覧会施設撤去後の公園の状況

本公園は、博覧会施設の撤去後、新公園の基本計画に従って新たに整備を進めていくが、次の区域・施設については既に整備が実施されており、今後も継続利用することとなっている。

継続利用する旧公園の施設

「愛知県児童総合センター」
 「愛知国際児童館・童話館」
 「温水プール・アイススケート場」
 都市公園決定時に定めた4つの基本方針に基づき、博覧会前に整備した区域・施設

「もりのゾーン」
 「ひろばのゾーン(自然体感遊具など)」

存置活用が決まっている博覧会施設

「迎賓館・レセプションホール」
 「グローバルループの一部」
 「大観覧車(5年間の暫定的存続)」

「サツキとメイの家(3~5年間の暫定的活用)」
 「愛・地球広場休憩所」
 「円形広場休憩所・トイレ」
 「管理棟」
 「コモン3トイレ」
 「コモン6円形休憩所」

なお、平成18年7月に第1期開園として、下図  に示すエリアの供用が始まっている。

博覧会施設撤去後の公園の状況

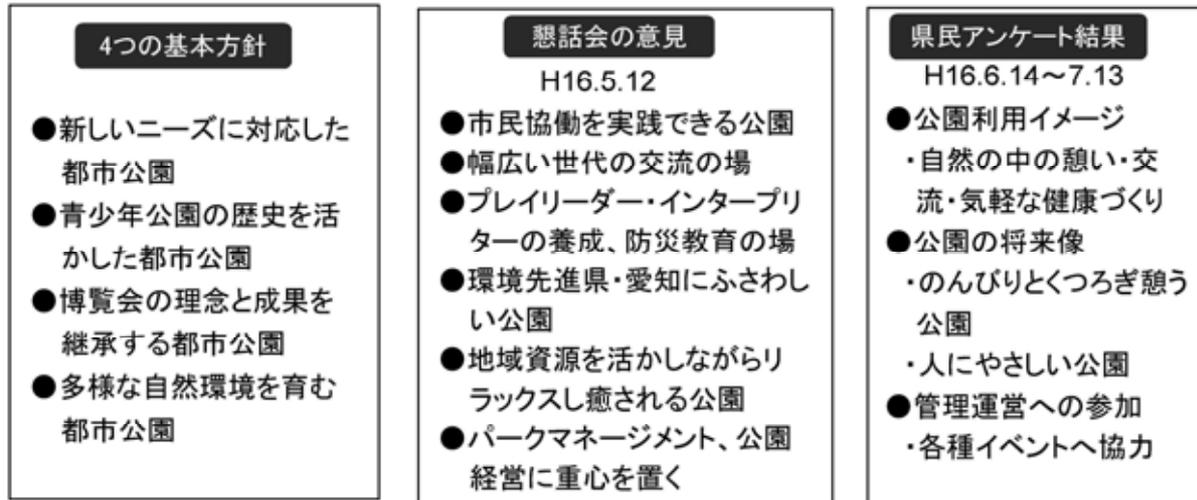


1.2 博覧会後の公園計画

「愛・地球博記念公園 暫定基本計画」では、博覧会後の公園計画を以下のとおりとしている。

(1) 整備・活用の目標

愛・地球博記念公園計画の骨格となる「整備・活用の方針」は、計画策定に先立って開催された「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」、および「県民意見聴取(アンケート調査)」の内容を踏まえて検討を進め、以下のように目標を設定した。



整備・活用の目標

昭和45年の開園以来、多くの県民に親しまれてきた愛知青少年公園は、「愛・地球博」の主会場を担ったことを契機に、博覧会后、これまでの公園の歴史と博覧会の理念と成果の継承を基盤として、21世紀にふさわしい広域型の都市公園として新生する。

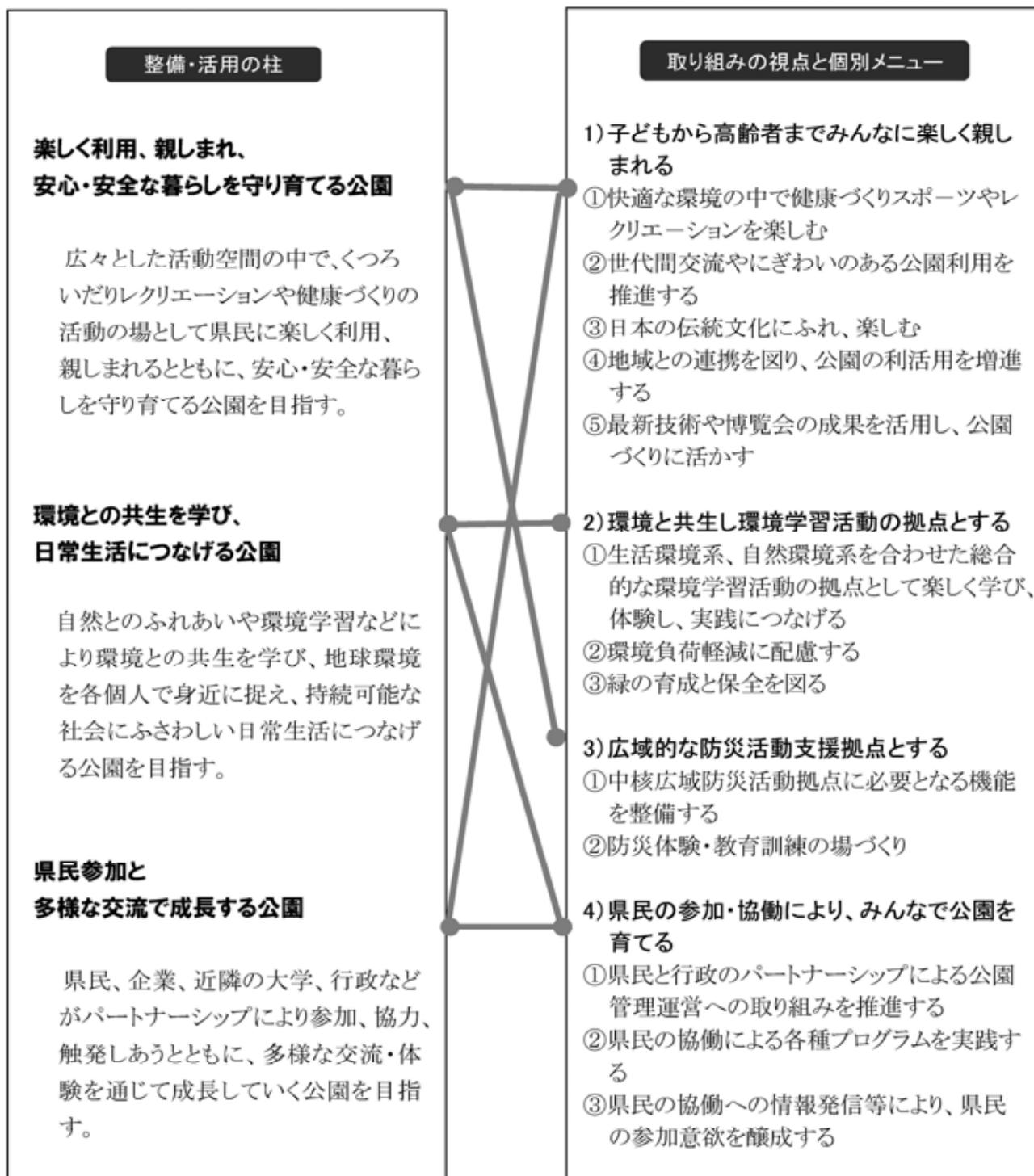
新しい公園は、健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長・進化し続ける21世紀型の公園 ～サステナブル・パーク～ を目指す。

サステナブル・パークでは、人々は広大なフィールドに身を置いて心と身体を解放し、楽しさを体感しながら、家族、仲間、地域、世界、自然、環境などとの関係を再構築し、より良い関係を維持していく。そして、それは自分らしい生き方を大切に、豊かさを実感できる県民生活の実現への取り組みとなるものである。

※「サステナブル」は「持続可能な」という意味であり、主に環境面において「サステナブル・ディベロップメント」(＝持続可能な開発、永続的な発展)という言葉で使われているが、ここでは、「サステナブル・パーク」を「県民と共に成長・進化し続ける公園」といった意味合いを含むものとして捉えることとしている。

(2) 整備・活用の柱と取り組みの視点

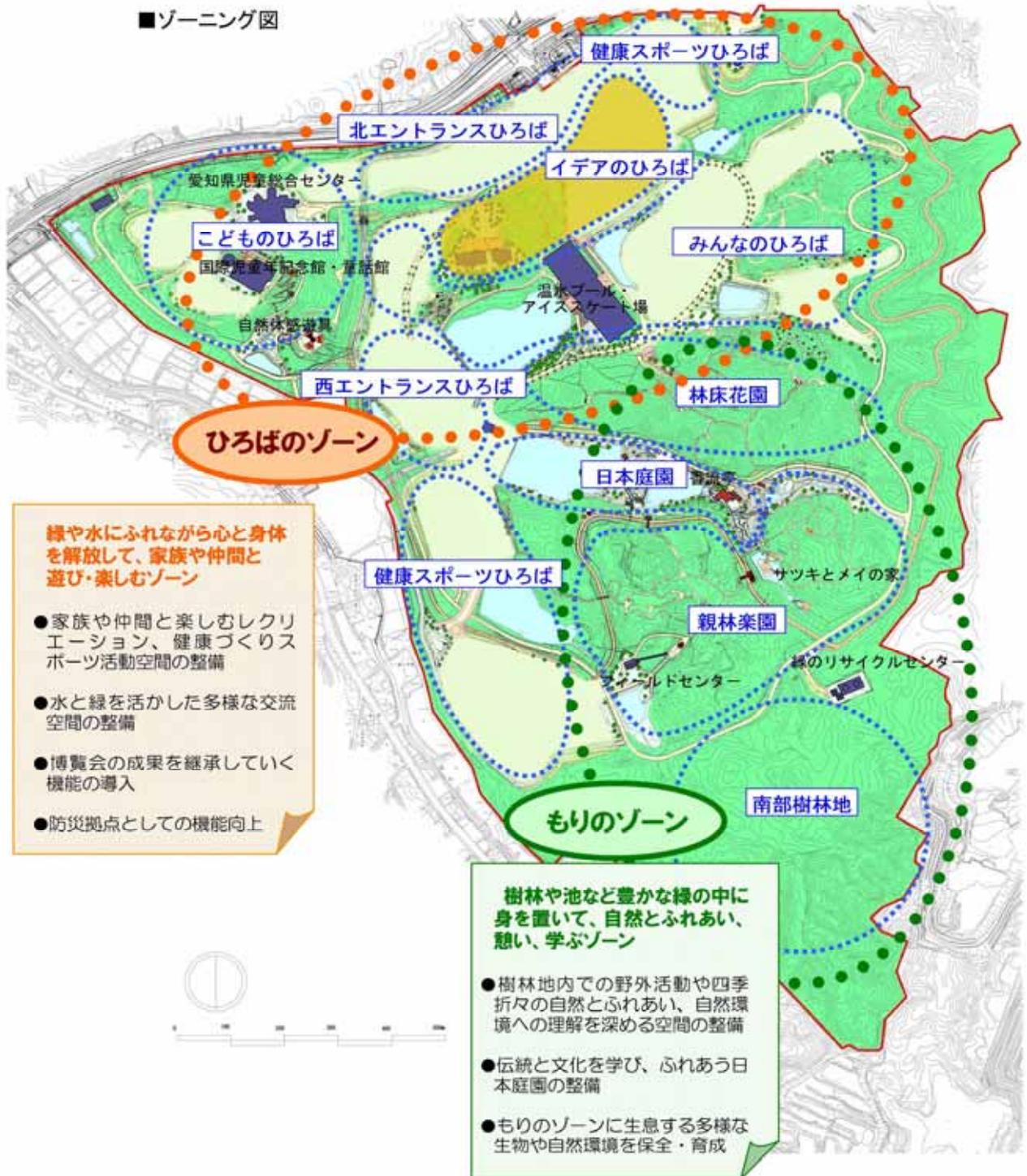
整備・活用の目標を実現していくための指針となる「整備・活用の柱」、および、その具現化を図るための「取り組みの視点と個別メニュー」を、以下のとおりとした。



(3) ゾーニングと検討エリア

公園のゾーニング（空間構成）は、以下の図に示すとおりである。また、各エリアの性格と主な利用イメージを、次ページの表に整理した。

このうち黄色で示した「アイデアのひろば」が、本計画における検討エリアである。



■各エリアの性格と利用イメージ

名 称	エリアの性格	利用イメージ
ひろばのゾーン	みんなのひろば	水と緑の中での多様な交流 <ul style="list-style-type: none"> 池や水路などの水辺空間や背後にある樹林地を取り込んだ魅力的な交流空間 芝生広場のような多目的利用が可能な開放的な空間で、子どもから老人までの幅広い公園利用者が、多様な交流を賑やかに展開 各種イベント・プログラムの展開、県民協働による公園づくりプログラムの実施 野外活動、資源循環・自然エネルギー等についての体験学習、ディキャンプ利用 非常時における防災支援活動拠点として利用
	こどものひろば	子どもの遊び・体験・レクリエーション <ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊び・体験・レクリエーションの場として利活用 愛知県児童総合センター、愛知県国際児童館との連携 自然エネルギーを活用した遊具や施設、利用プログラムの導入 県民協働による子どもを中心とした公園づくりプログラムの実施
	健康スポーツひろば	健康づくりスポーツを家族や仲間と楽しむ <ul style="list-style-type: none"> 緑に囲まれた広い空間、環境を活かした県民の複合多目的な健康づくりスポーツの場(サッカー、野球など)として利用 利用メニューは、旧公園の利用実態や周辺分布状況を考慮し決定 非常時における防災支援活動拠点として利用
	北エントランスひろば 西エントランスひろば	エントランス <ul style="list-style-type: none"> 公園の顔となる華やかな空間 環境共生に配慮した空間 公園全体案内や情報提供 公園管理運営機能・休憩機能・飲食機能・防災支援機能の配置 リノモ公園駅や駐車場からの安全で快適な利用 公園の全景を見渡することができる(北エントランス) パーク&ライド(北エントランス) 防災時の緊急車両駐車スペースとして利用
	アイデアのひろば	博覧会の理念と成果の継承 <ul style="list-style-type: none"> 博覧会の理念と成果の継承の場 博覧会成果を継承、例えば資源循環などへの取り組みを関係機関や団体、企業、市民と協働で実践 博覧会で培われた交流の場としての継続的活用
	林床花園	四季折々の樹林風景を楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサル園路を利用して誰もが森に入って四季折々の風景を楽しむ 環境学習の場として利用
	日本庭園	伝統文化とのふれあい <ul style="list-style-type: none"> 伝統文化とのふれあい拠点として多面的に利活用 鑑賞会、茶会、月見会、お花見会等、各種イベントを、関係団体や県民等とのパートナーシップによる開催を検討
	親林楽園	自然学習・野外活動 <ul style="list-style-type: none"> 樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい、学習し、自然環境への理解を深める場として利用 フィールドセンターを活動拠点として利用 リサイクルセンターでは刈草・剪定枝をチップ化及び堆肥化し、園内リサイクルを実践
南部樹林地	緑地保全 <ul style="list-style-type: none"> 樹林地保全のために整備を抑制するエリア 観察会等の環境学習プログラムとの連携により、必要時に開放し、自然学習・教育活動を実施 インタープリター活動と合わせての利用を検討、エコツアーの実施など 	

1.3 公園全体計画における「アイデアのひろば」の性格、展開の方向

「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」により検討された「アイデアのひろば」の性格、展開の方向は以下のとおりである。

(1) 位置

- ・次項に示す「アイデアのひろば」
- ・北エントランスから迎賓館までのエリア（北駐車場を除く）

(2) 面積

- ・約8ha

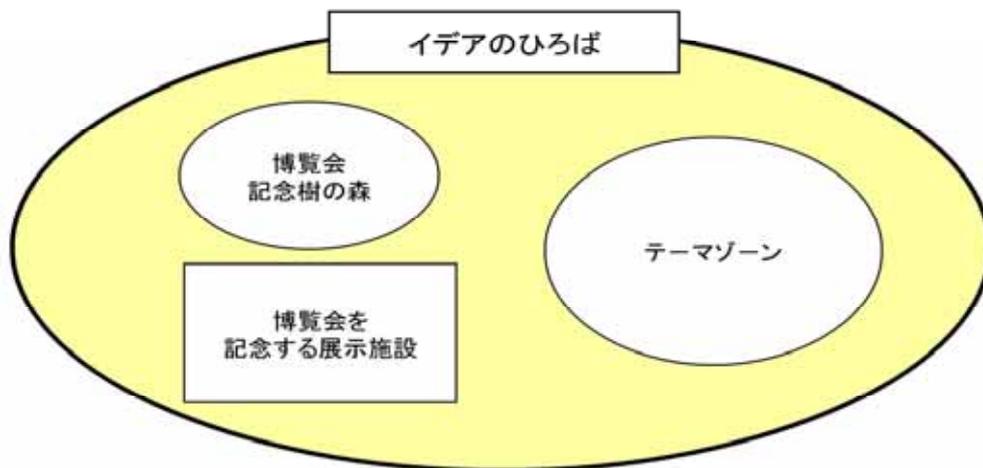
(3) エリアの性格

- ・博覧会の理念と成果の継承の場

(4) 展開の方向

- 1) 博覧会を記念する展示施設
【場所】 迎賓館・レセプションホール
【内容】 博覧会参加国から贈呈された記念品等の展示
- 2) 博覧会記念樹の森
【場所】 ロータリー館跡地
【内容】 博覧会参加国による植樹セレモニーの記念樹を移植
- 3) 博覧会の理念と成果を引き継いだテーマを展開するゾーン
【場所】 「アイデアのひろば」の東側「テーマゾーン」

■「アイデアのひろば」エリアのイメージ



(5) 「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」におけるアイデアのひろばに対する意見

- ・公園における博覧会の理念と成果の継承の核となる場としてより発展させるとともに、その内容については公園全体計画との整合を図る必要がある。
- ・公園全体のあり方としては、様々な力を結集しながら、成長する公園（サステナブルパーク）を目指しており、アイデアのひろばの検討においても前提とするべきである。
- ・市民協働も博覧会の成果の重要な要素であることを考慮する必要がある。

■検討エリア



■航空写真 (2005年3月撮影)



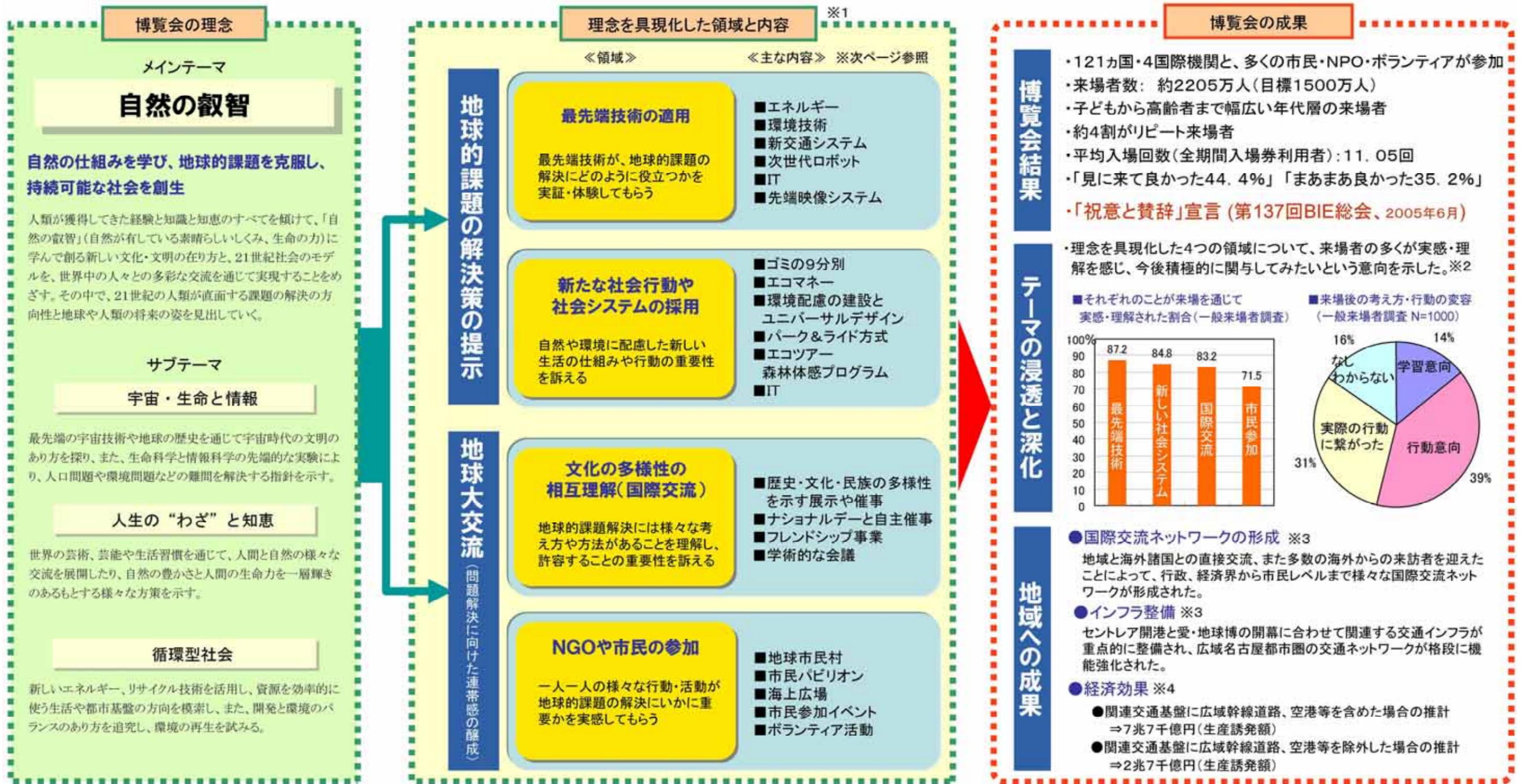
1.4 博覧会の理念と成果の継承 ~ 博覧会が生み出したもの ~

「愛・地球博」は、21世紀の新しい社会のモデルになる文明の創造と新しい文化の提案として「自然の叡智」をテーマに、人類が直面している地球的課題を克服し、持続的成長が可能な人類と自然が共生できる社会の方向を様々な方法で展開した。

博覧会には多くの国々や国際機関の他、市民・NGO/NPO・ボランティアなどが参画し、テーマの具現化と深化を行った。それらの展示や催事を通じて、来場者の多くがテーマに理解・共感を示し、考え方や行動にも大きな影響を受けた。

開催の成果としては、国際博覧会として世界から高い評価を受けるとともに、来場者数は当初計画を大きく上回る2,205万人を達成した。その8割(来場者WEB調査)から「良かった」という積極的な評価が得られた。

地域社会に対しても、国際交流ネットワーク形成、インフラ整備、経済波及効果などの面で大きな成果を残した。



1 2005年日本国際博覧会「愛・地球博」のご報告(H17.10.20 財団法人2005年日本国際博覧会協会)および博覧会協会インターネット発表資料等より作成

2 (財)2005年日本国際博覧会協会「テーマの理解度・浸透度アンケート調査」(平成17年10月)の結果

3 「魅力と活力溢れる中部の実現」(平成17年9月)社団法人中部経済連合会

4 「愛・地球博の経済効果に関する評価(概要書)」(平成17年11月)㈱UFJ総合研究所

最先端技術の適用

エネルギー (化石エネルギーの枯渇や地球温暖化の防止)



大規模な自立分散型の新エネルギー発電システムの実証・実験施設群、右記の各エネルギーを長久手日本館に供給



太陽光による発電システム



会場造成時に伐採した木質チップや会場内で発生したペットボトルなどを原料に、ガス化し発電に利用



会場内のレストランなどから発生する生ゴミを原料に発酵で得られたメタンガスを使って燃料電池に活用

環境技術



トウモロコシなどのでんぷんと食品廃棄物を原料に作られた食品類



建物中央の大きな筒「風の塔」(ソーラーチムニー)に日が当たると、空気が暖められて上昇気流をつくり、下からの空気を吸い上げて換気ができる自然通風システム



都心部のヒートアイランドの抑制と地球温暖化現象の低減への試みとして展示された巨大な垂直の緑化壁

IT

ユビキタス[®]観光ガイド実証実験



会場内のパビリオン・施設の案内、目的地までのナビゲーションなどが可能な6ヶ国語対応の最先端多機能端末を使用したユビキタス観光ガイド実験

新交通システム



無人運転による非連結の隊列走行が可能な新しい交通システム

先端映像システム



臨場感、体感性が向上する世界初の360度全天球型映像シアター

次世代ロボット



障害者等ITバリアフリープロジェクト



チャイルドケアロボット、接客ロボット、車椅子ロボット、警備ロボット、屋外掃除ロボットなどの次世代ロボットの实証・展示

- 1 【「愛・地球博」の成果・評価について(テーマを具現化した領域・分野) (財)2005年日本国際博覧会協会】より作成
- 2 インターネットなどの情報ネットワークにいつでもどこからでもアクセスできる環境を指す。場所にとらわれない活動ができるようになる。

新たな社会行動やシステムの採用

ゴミの9分別



1. 生ごみ
2. 割りばし
3. ペットボトル
4. プラスチック類
5. 紙コップ・紙容器
6. 紙類
7. 燃えるごみ
8. 燃えないごみ
9. 飲み残し水

来場者から出るごみを9種類、参加者(関係者)から出るごみを17種類に分別して回収し、会場から出されたごみの85%を資源としてリサイクルする。

エコマネー

市民の自発的な「エコ活動」によるCO2排出削減の促進

レジ袋削減やグリーン購入等、市民の「環境配慮行動」に対し「EXPOエコマネー(ポイント)」が提供され、蓄積することで、景品に交換することや植林などの環境保全活動への寄付を行うことができる。



エコツアー・森林体感プログラム



バックヤードツアー

バックヤードツアー: 環境技術に関心の深い官公庁・企業関係者や学生を主な対象に実施



里の自然学校

キッズ・エコツアー: 小中学生が対象。地球の将来を担っていく子供たちに、様々な環境配慮施設を見てもらい、環境学習に役立てるツアー

環境配慮の建設とユニバーサルデザイン



グローバルループ

グローバルループ:

起伏のある地形に出来るだけ手を加えず、会場内のため池13カ所そのまま保存し、多くのバリアフリーの配置と来場者のスムーズな移動を可能にした。



間伐材を使用したループ床材



自己完結型トイレ

排泄物や臭気を分解し消滅させる排水の必要が無い自己完結型トイレ



木チップ舗装

会場造成時に伐採した木チップを舗装材に活用

パーク&ライド方式



交通渋滞の緩和・環境負荷軽減のため 博覧会専用駐車場にマイカーなどを止め シャトルバス等にて会場に行くシステム

多様な文化・価値観の共有

歴史・文化・民族の多様性を示す展示や催事



マンモスの展示を通じて、「地球環境の変化」あるいは「ヒトと自然の関係」などを考えるきっかけにしたマンモスプロジェクト



出展参加国の展示・催事



ナショナルデーと自主催事



「自然の叡智」というテーマを各国の伝統や文化に即して様々に解釈し、それを各国のイベントやパフォーマンスに展開することで、それぞれの文化の多様性を観客に訴えた。

フレンドシップ事業



大使一行を出迎える子どもたち

愛・地球会議等 学術的な会議

「愛・地球会議」3月開催「オープニングフォーラム」



「愛・地球会議」は万博史上初の同一テーマによるリレーションポジウムであり、「自然の叡智」を考察し、「持続可能な社会の創造」を総合テーマに、世界の叡智である有識者や専門家が参加した。

NGOや市民の参加

地球市民村



国内のNPO/NGOが海外のパートナーと組んでユニットとして参加した。「持続可能性への学び」というテーマのもと様々な分野のユニットが毎月5ユニットずつ延べ30ユニットが参加

海上広場



市民パビリオン



「市民パビリオン&海上広場」は、市民の立場で「自然の叡智」というテーマに立脚した市民プロジェクトの発表の場。国内・外から公募・決定した235のプロジェクトは、すべて市民の手により企画され実施。市民活動や環境活動の理解や共感を促進することを目標とした対話型イベントが展開された。

ボランティア活動



市民の自主的・主体的な活動によって博覧会の運営を支え、来場者に素敵な思い出と満足感が残るような「おもてなし」を提供することを目標に展開

市民参加イベント



愛・地球博会場全体から世界平和のメッセージを提唱するため、来場者とスタッフで長久手会場の空中回廊「グローバル・ループ」(全長2.6キロ)を囲んで巨大な人の輪を作った。

長久手愛知県館



長久手愛知県館



愛知県館の電力源



踊る指南鉄塔～先端技術と伝統的からくり技術の融合



モノづくり絵巻

愛知の伝統モノづくりパワーと最先端技術のコラボレーションにより、地球温暖化という人類の危機を乗り越え、これから取り組むべき道を見つめる。地球問題を楽しく感動的に体験できる「地球たいへん大講演会」を展開

日本館(長久手・瀬戸)



長久手日本館 (竹ゲージの外観)

菌のような生命体や大気圏をもつ地球と類似の役割を持つ巨大な二重皮膜構造によって、建物と竹ゲージの間に半屋外の気持ちよい空間を創出



熱負荷を軽減する竹ゲージ付近

医療や農水産業のさまざまな分野で活用が期待される「ナノバブル」技術の紹介。「ナノバブル」(超微細な酸素の泡が溶け込んだ海水)により魚が活性化され、淡水魚と海水魚が同じ水槽で共存が可能となることを展示

1 【「愛・地球博」の成果・評価について(テーマを具現化した領域・分野) (財)2005年日本国際博覧会協会より作成

ドイツ館



自然からヒントを得た技術の展示



ライド

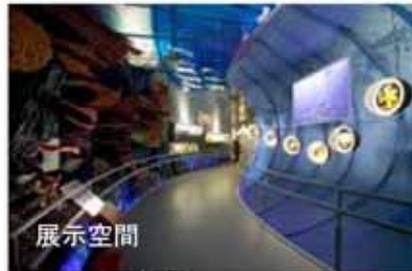
バイオロジーとテクニックを組み合わせた造語「ビオニス」をコンセプトに、自然界の原理に学んだ新技術を来場者に分かりやすく具体的に示すことで、地球環境問題の解決方法を提示

150トンのハイテク機材で構成された「ライド」と呼ばれる軌道システム。形状は水滴をイメージしており、館内各所を走行し、さまざまな風景や展示を五感で感じながら鑑賞できる体験型乗り物

マレーシア館

マレーシア館のテーマは「本当の自然・無限の調和」。ユニークな動植物を紹介した「熱帯雨林の歌」、環境系保護のための人口湿地帯に関する「命のコーラス」等のコーナーがある。

バイオテクノロジーを通して環境問題に対して革新的な解決法を展示



展示空間

フランス館

キューブシアターでは、傷ついた惑星・地球の旅に来館者を誘い、映像によって工業汚染、公害など地球の負の部分にも目を背けず真に地球の未来を問いかけた。

また、別のコーナーでは地域集合体、企業、NGOらによって提案される「持続可能な開発」のプランが紹介された。

こうした地球の直面する問題を深く掘り下げ、地球レベルでの解決、取り組みの必要性のメッセージを発信した。



キューブシアター

オランダ館



限られた国土しか持たないオランダでは、持続可能な発展のために自然に介入し、水と戦ってきた歴史がある。限りある水資源と安全で豊かな生活環境とについて展示

アメリカ館



アンデス共同館

祖先の声に導かれた少女が、アンデスの遺跡を巡り、自然との共生の道を探る物語の映像にて、自然と調和していくために、種の多様性の維持と、伝統的な文明の知恵に学ぶことの重要性をわかりやすく紹介した。

